

---

# ありふれたひとつのラブレター

来々

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ありふれたひとつのラブレター

### 【Nコード】

N6478M

### 【作者名】

来々

### 【あらすじ】

何処にでもいる恋人の、何処にでもあるラブレター。別に語る必要はないのかも知れないけど、少しだけ優しい気持ちになってもらえたらと思います。

僕の初恋を話そう。

こう僕が言つと、君はいつも頬を膨らませて、

「他の女の話なんてしないで！」

と言つて僕の口を塞いでしまう。

でも、僕は君に聞いて欲しいんだ。初めて繋いだ女の子の手の柔らかさ、初めてしたキスの味、初めてしたSEX。

本当に好きだと思えた君だから、知つて欲しい。

僕があのと看どう思つたか、その女の子はどんな子か。

でも考へてみたら、声に出して言うのは少しばかり恥ずかしいね。いつも君が止めていてくれてよかったよ。いざ言つとなつたら、僕の顔は真つ赤になつて、君を正面から見ることなんて出来なかつただろう。今だつて頬を上気させて、手の汗で紙をグシャグシャにしながらこれを書いてるんだから。

大丈夫？ちゃんと書いてあること読める？汗で字が滲んだりしてない？　なんて、今聞いた所で遅いのだけれど。

兎に角、これから書くのは、僕の初恋の物語。大切な君にだから伝えたい、僕の歩んできた恋愛の軌跡。

僕がその初恋の人と初めて出会つたのは、高校二年生に上がつて

直ぐの事だった。

遅いでしょ？自分でも自覚はしてるんだ。でも、その日までの僕は、誰かを好きになるなんて、面倒だとは思えなかった。バカだったんだ。真面目に恋愛した事なんかないクセに。

だから、その日も特に変わった事はなかった。いつもと違うのは、学年がひとつ上がつて、教室が一階から二階になったぐらい。

でも、それが重要なことだったんだ。

何故なら、その二階になった教室の、僕の席の右隣に、その人は座っていたから。

僕が教室に入ったときには、その人はすでに席について、難しそうな本を読んでいた。

「隣の席だね、これから一年間よろしく」

何気ない気持ちで声をかけた僕に、本を閉じてこっちを向いてから

「こちらこそ、よろしくね」

って言うてくれた。彼女は何気ない普通の仕草だったんだろうけど、そのときの笑顔が本当に素敵で、僕は直ぐに恋に落ちちゃったんだ。

それから、その人に毎日話しかけたよ。彼女はあんまり話す方じゃなかったけど、僕のくだらない話に一生懸命について来てくれた。

あんまりいつつも二人でいたから、いつから付き合ってたのかわからないけど、兎に角僕らは付き合うようになった。特に毎日が変わったわけじゃないけど、僕はずっと浮かれてたよ。

初めてのデートは本屋めぐり。

「君らしいね」

って僕が言ったら、恥ずかしそうに笑ってくれた。

帰り道で手をつないだときの感触、本当に覚えてる。僕の手は今

以上に汗ばんでたよ。

何回もデートして、キスするようになって、夏祭りの後に初めてSEXして。

なんだか笑っちゃうくらいベタな恋愛だなんて思うよね。でもひとつだけ言っていない言葉があるんだ。

もうわかるよね、僕の初恋の人。

別の人の話なんかじゃないよ。君が、僕の初めての人。

「好きです」

もっと早くに言えたら良かったのにね。でも、このくらいが僕達らしいかな。

以上で告白終わりです。こんな僕でよかったら、結婚してやって下さい。

（後書き）

はじめましてとこんにちは。来々と申します。今回は、タイトル  
の通り何処にでもあるありふれた恋愛をテーマにしてみました。完  
全なる自己満足になってしまいましたが、呼んで頂いた方が少しで  
もほっとしてくれたら嬉しいなと思います。

では、次回こそがんばります

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6478m/>

---

ありふれたひとつのラブレター

2010年10月12日05時50分発行